

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSSEGAKI : Saitama Konchyū Danwakai

古利根川流域—久喜、幸手・杉戸—
の蝶覚え書（1）

松井 安俊
松井 英子

標記の地域とは、埼玉県東北部にあって、利根川と騎西台地とにはさまれた扇状低地（加須低地）東南部の、古利根川とその支流青毛堀川との流域からなる小地域である。水田畑の間に屋敷林が散在するこの田園地帯は、いま、久喜市、幸手町そして杉戸町における人口急増による市街地膨張に圧迫され、特有の地形とされる河畔砂丘も相当削られるに伴って雜木林が寸断、縮小されるなど、急速に変わりつつある。

筆者らは1974年7月から1977年8月までの3年間、当地域で蝶の採集と観察を行ったので、その記録を中心に当地における蝶相、各種の発生状況および生態について得た若干の知見を記して、諸氏の参考に供したい。

記載にあたって、種の配列は川副・若林⁽³⁾に準じ、各種について採集および目撃のはばすべての記録を、またとくに記録の多い種については発生状況を図に、それぞれ示す。

それらに付す○印は新鮮、△印は汚損、◎印は中間、とそれぞれ採集個体の鮮度を、また（目）は目撃記録であることを示す（図については別記）。

アゲハチョウ科

1. ジャコウアゲハ

17-VI-'76, 1♂, ○. 河畔にウマノスズクサがわずかに自生するが、採集、目撃ともこのノ例のみである。

2. アオスジアゲハ

12-V-'75, 1♀, ○. 12-VI-'75, 1ex, (目). 6-VI-'76, 1ex, (目). データ不足だが目撃機会は少なくない。

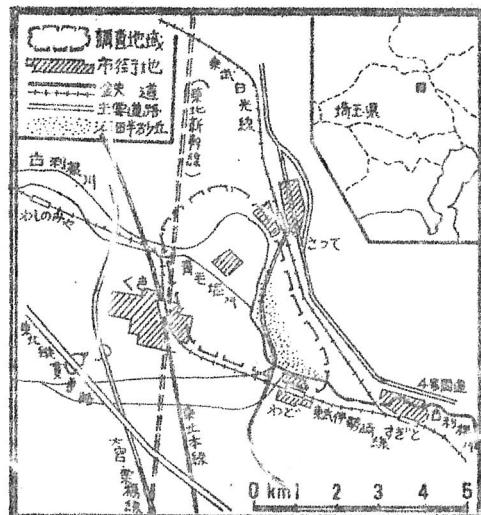


図1 古利根川流域概念図

3. キアゲハ

20-V- '76, 1♀, ○. 16-VI- '76, 1♂, ◎. 1-VII- '76, 1♀, ◎. 14-VIII- '76 1♀, ○. 13-IX- '73, lex, (目).

4. アゲハチョウ

16-VI- '76, 2♂ 1♀, ○. 27-VI- '76, 1♂, ◎. 20-IX- '76, 1♀, ○. 春型のデータは欠損しているが、前種同様にみられ、4月～5月にノ化、6月中～7月中旬にノ化、7～8月、9月に各1回発生するようだ。

成虫は午後から夕方にかけて、羽を水平にひらき葉に静止する習性がある³⁾が、1975年7月23日の15時ごろ（晴、無風）に30mが枯れたササに陽をうけて集合するのを観察した。

5. クロアゲハ

1-VII- '77, 1♂, ○. 23-VII- '75, lex, (目). 13-IX- '75, lex, (目). あまり多くない。

6. カラスアゲハ

16-VII- '75, 1♂, (目). この例のみで、域内ではコクサギを見出していない。

シロチョウ科

7. モンキチョウ

図2に採集記録をプロットしたが、発生回数の推定はむずかしい。

8. ツマグロキチョウ

15-IX- '75, 2♀♀, ○. 23-IX- '76, 1♂, ○. 18-X- '76, 1♀, ○. 3-XI- '75, 1♂ 1♀, ○. カワラケツメイの自生する古利根川岸などに発生する。夏型は未記録である。

9. キチョウ

図3に示すように、越冬成虫は4月一杯みられる。第1化（夏型）は6月、以後発生はかなりあい、9月に中間型も少ないので生じ、10月に秋型がみられる。

1975年8月2日（1♀）に前羽の長さが18mmと小型化する個体が得られた。

10. スジグロシロチョウ

図4参照。林辺などやや陰地にみられ、野菜畠を中心とみられる次種とはすみ分ける。高温期（8月）にやや小型化傾向もあるが、データ不足である。エゾスジグロシロ

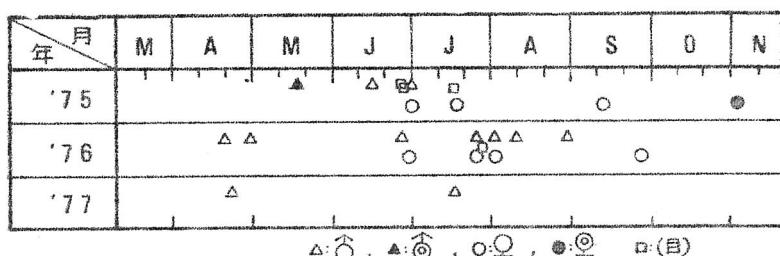


図2 モンキチョウ

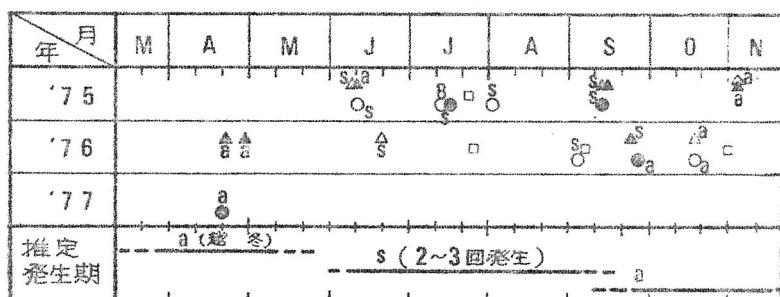


図3 キチョウ

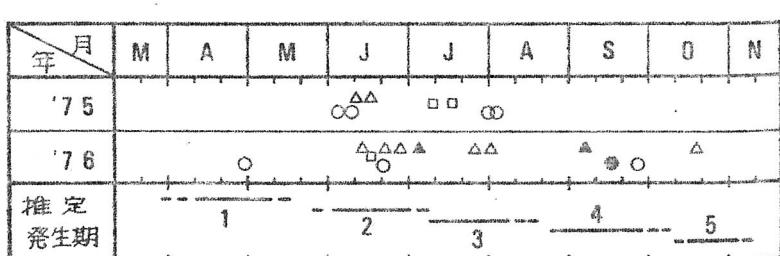


図4 スジグロシロチョウ

チョウ (*P. napi*) は確認していない。

11. モンシロチョウ

図5(1)に示すように、年々化と推定される。参考に、千葉県柏市における約/haほどどの畠地を通勤時(3:00~8:30 a.m.)に通過するときに観察された個体数の消長を示す……図5(2)。

矢野⁴⁾も千葉市で同様の記録方法で年々化を推定しているが、当地方での季節消長もこれらとはほぼ同様と考えられる。8月中旬~9月上旬の個体は小型化の傾向がある。

12. ツマキチョウ

発生は4月20日ごろから♂が盛期、♀は4月末から5月初めま

でみられる(図6)。古利根川岸の発生地(砂丘)では♀は好んでイヌナズナの花柄に卵を下向きに産付する。

幼虫は、果実を食するが、5月下旬になると、イヌナズナは枯れる。飼育条件下では、イヌナズナ、タネツケバナ、イヌガラシの順に好んで食べる。

シジミチョウ科

13. アカシジミ

次種とともに、古利根川沿いにわずかに残る狭い雑木林(アカマツーコナラ・クヌギ)で発生する。記録は次の1例だけである。20-VI-'76, 1♀, △.

14. ミズイロオナガシジミ

16-VI-'76, 1♀, ○: 4exs(目). 26-VI-'76, 1♀, ○. ごくせまい林の中の数本のクヌギに集中して発生するのがみられるが、このことは筆者らが目下調査をすすめている千葉県手賀沼周辺でも、また栃木県栃木市での報告⁵⁾でも同様である。

15. ミドリシジミ

29-VI-'77, 1♀B型, 羽化. 7-VI-'76, 1♂, 羽化. 13-VI-'76, 1♂(目). 115-VI-'75, 1♀O型, ○. 26-VI-'75, 1♂, ○. 29-VI-'75, 1♂, ○.

水田の縁に残るハンノキに発生し、幼虫は5月上旬に造巣が目立ち、場所によっては多数発生するが、成虫はさほど多くなく、寄生率が高いものと思われる。

16. ベニシジミ

図7に示すように、春型は3月中旬より5月中旬ごろまでにみられるが、これは様々なステ

年	M	A	M	J	J	A	S	O	N
1974								○	
1975			△△	△△	○	□□△△	△		
1976	△	△	○	△△	○	△○	△△	△△	△○
1977	△	△							
推定 発生期	1	2	3	4	5	6			

図5(1) モンシロチョウ
 △: ♂, ▲: ♂, ○: ♀, ●: ♀, □: (目)

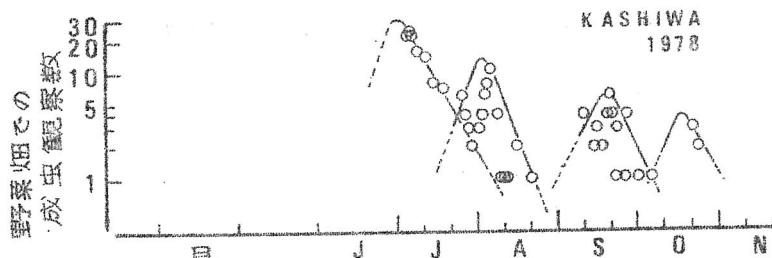


図5(2) 柏市におけるモンシロチョウの発生状況

年	M	A	M
'76			△ ○ ○
'77	B ○	B ○	△△ ○ ●

△: ♂, ▲: ♂, ○: ♀, ●: ♀, B: 羽化

図6 ツマキチョウ

ージで非休眠越冬する⁶³ためであるとされている。⁷⁾第2化は5月下旬から以降4～5回の発生らしい。スイバギシキシに産卵がみられるが、産卵部位は葉表および葉柄、根ぎわの茎などである。幼虫は、飼育では昼間は根元に降り、夜間摂食する。

17. ゴイシシジミ

31-VII-'76, 1♂, ○. 1-VIII-'76, 2♂♂, ○: 1♂, ○. 5-VII-'76, 1♂, ○.
第1化についてのデータは欠損する。林内、林辺の下生えのササに局的に発生する。

18. ウラナミシジミ

6-X-'74, 1♀, ○. 3-XI-'75, 1♀, ○: 1♀, ○. この他ノタク4, 75の両年、8月中旬よりアズキ畑に多数みられたが、ノタク6年には一度も見ず⁷⁾、同様の実態が各地から報告された。^{10) 11)}一方、与野市¹²⁾、栃木県南¹³⁾ではさわめて少數例ながら飛来、発生が確認され、この年は、いずれにせよ南房総の越冬地からの飛来と2次発生は例年にはほど少なく、本種のよう¹⁴⁾に、北上、拡散をくりかえすタイプでは、年によって発生状況が大きく変動することを示した。¹²⁾

19. ヤマトシジミ

幼虫で越冬後の第1化の発生は、4月中旬から5月にかけてで、個体数も少ないが、以降5回程世代をくりかえして数を増すようだ(図8)。

20. ルリシジミ

21-N-'76, 1♀, ○.

1-V-'75,

18, ○. 16-V-'76, 1♀, ○. 27-V-'76, 1♂, ○. 17-VI-'76, 1♀, ○: 1♀, ○. 17-VI-'77, 1♀, ○. 1-VII-'76, 1♀, ○. 4月上旬から下旬にかけて第1化を記録している。6月に第2化がみられ、9月下旬にも発生がある。記録は不十分だが9月を含めて年4回発生だろうか。

21. ツバメシジミ

第1化は4月中旬より5月上旬までで、5月下旬より第2化、以降9月の発生期まで、かなりあいながら3～4回発生するらしい。

さらにノロ～ノ月にノ回発生するが、記録は欠ける(図9)。

(つづく)

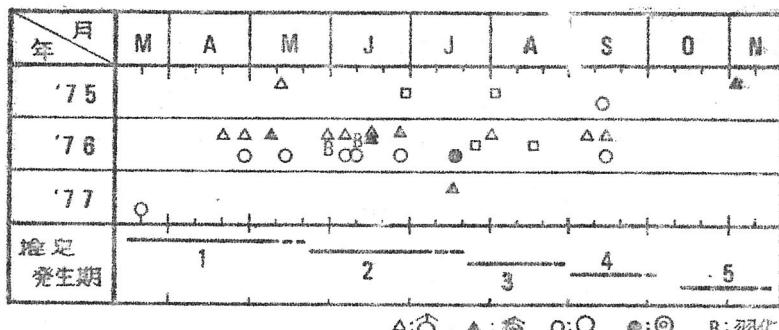


図7 ベニシジミ

△: ♂, ▲: ♀, ○: ♀, ●: ♀, B:羽化

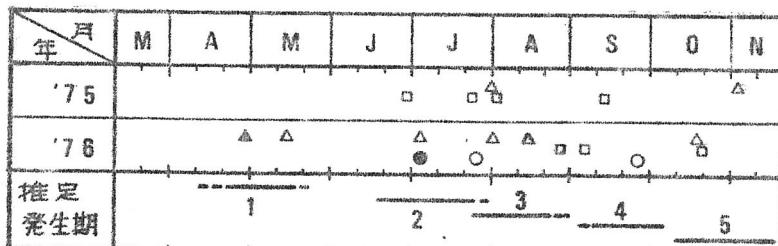


図8 ヤマトシジミ

△: ♂, ▲: ♀, ○: ♀, ●: ♀

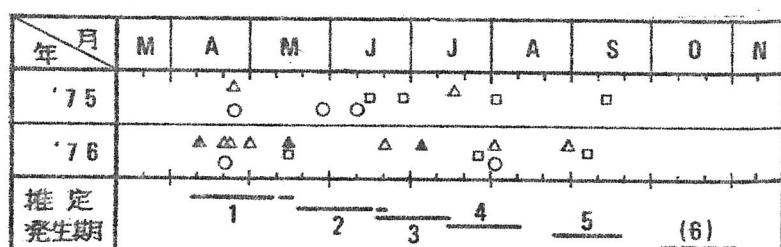


図9 ツバメシジミ

△: ♂, ▲: ♀, ○: ♀, ●: ♀, □:羽化

参考文献

- 1) 埼玉自然研究会編 (1973) : 埼玉県の自然、野村出版、千葉、p 24.
- 2) 川副昭夫・若林守男 (1976) : 原色日本蝶類図鑑、保育社、大阪。
- 3) 福田晴夫他 (1972) : 原色日本昆虫生態図鑑 (Ⅲ、チョウ編)、保育社、大阪、p 91.
- 4) 矢野幸夫 (1977) : チョウの実験と観察、東洋館出版社、東京、p 167, pp169~171.
- 5) 桜井 浩 (1978) : 昆虫と自然、13 (5), pp25~28.
- 6) 落合和泉 (1954) : A. S. O., 3 (1), pp12~14. (抄、新昆虫 7 (11), p 31 (1954))
- 7) 昆虫愛好会、栃木県の蝶編纂委員会 (1975) : 栃木県の蝶、宇都宮、p 61.
- 8) 松井安俊・松井英子 (1977) : 昆虫と自然、12 (1), p 20.
- 9) 塩田正寛 (1977) : 同前。
- 10) 大野進太朗 (1977) : 月刊むし、75, p 28.
- 11) 松本和馬 (1977) : 昆虫と自然、12 (12), p 29.
- 12) 西山 隆 (1977) : インセクト、28, pp1~3.

(千葉県柏市根戸 427-5, 北柏第2住宅 3-102)

×××××

短報

ミヤマチャバネ
セセリの一記録
松本和馬

ミヤマチャバネセセリを埼玉県与野市上峰にて採集しているので報告する。本種の与野市での記録はほとんどないようである。

1♂ (新鮮) 1976年9月6日 筆者採集。

なお、本種は埼玉県南部の平地ではギンイチモンジセセリと同じような周年経過をとるようで、4月下旬~5月上旬、7月上旬、9月上旬に新鮮な個体を得ることが多い。年3化ということだろうか? また、分布もよく一致し、同じような所で一諸に採れることが多い。

ウラギンシジミ
の目撃記録
松本和馬

埼玉県与野市上峰において、下記のようにウラギンシジミを確実に目撃したので記録する。

1ex 1976年10月21日 午前7時50分

(金沢市 土清水 8~87
高沢アパート)

和光市でウラギンシジミを採集
斎藤悟

1978年の夏は例年になく暑かったが、そのせいかウラギンシジミの採集例が多い。私も和光市で採集したので報告する。

1♀ (秋型) 1978年8月6日 埼玉県和光市

(上福岡市 南台 2-7-7~301)

低地におけるミドリヒヨウモン
の記録
荻島和美

1♂ (ほぼ完全) 1978年9月9日 午前11時
埼玉県南埼玉郡菖蒲町小林にある自宅の庭のフジウツギの花に飛来したものを探集した。

筆者は数年前に加須市で汚損した1♂を、さらに騎西町において1970年7月14日にほぼ完全な1♂が道路上に落ちていたのを手にしたことがある。

(南埼玉郡菖蒲町小林 2952)

浦和でミドリヒヨウモン
市川和夫

1♂ (汚損) 1978年10月1日 浦和市領家

夏の北海道産蝶類

松本和馬

碓井 徹氏がノタク3年の夏に北海道各地で採集した蝶類の記録である。筆者は碓井氏より全採集標本の保管および採集データの発表を依頼されたので、ここに記録することにした。

なお、ヤマキマダラヒカゲ・コヒヨウモン、および汚損のはなはだしいスジグロチョウについては、念のため原 聖樹氏に同定・確認していただいた。碓井・原氏に感謝する。
(○……新鮮、◎……中位、△……汚損 の意であり、リン粉の鮮度を表わす)

セセリチョウ科

1. コチャバネセセリ

1♀ ◎ (春型)、14-VII、層雲峠。この個体は羽の表面と後ろ羽の裏面に全く白色班がなく、まえ羽の裏面においても白班の発達度が弱い異常型のようにみえる。

2. コキマダラセセリ

1♂ ○、24-VII、ヌカ平。(糠平)
1♀ ○、14-VII、層雲峠。

アゲハチョウ科

3. カラスアゲハ

1♀ △ (春型)、25-VII、幌加。
1♂ ○ (春型)、4-VII、層雲峠。

シロチョウ科

4. スジグロチョウ

1♂ △・1♀ △ (共に春型)、14-VII、
層雲峠。

5. エゾスジグロチョウ

1♀ ○ (夏型)、24-VII、ヌカ平。

6. エゾシロチョウ

1♂ ○・1♂ ◎、26-VII、十勝三股。
1♂ ◎、13-VII、層雲峠。
1♂ ◎・1♀ ◎、14-VII、層雲峠。

シジミチョウ科

7. ウラゴマダラシジミ

1♂ ◎、12-VII、八雲。

8. ミドリシジミ

1♂ ○、26-VII、十勝三股。

9. ルリシジミ

1♂ △、14-VII、層雲峠。

タテハチョウ科

10. イチモンジチョウ

1♂ ○、26-VII、十勝三股。
1♂ ◎、14-VII、層雲峠。

共に白帯の幅が広く、まえ羽の第3室外側とまえ羽の端の白斑が発達した個体。

11. オオイチモンジ

1♀ ○、26-VII、十勝三股。

12. ミドリヒヨウモン

1♂ ○、24-VII、ヌカ平。

13. ギンボシヒヨウモン

1♂ ○・1♂ ◎・1♀ ◎、24-VII、ヌカ平。
1♂ ○、26-VII、十勝三股。

14. コヒヨウモン

1♂ ○、14-VII、層雲峠。

1♂ ○、23-VII、幌加。

1♂ ○・1♀ ○、25-VII、幌加。

15. カラフトヒヨウモン

2♂ ◎・1♀ ○、14-VII、層雲峠。
1♀ ◎、25-VII、幌加。

16. コヒオドシ

2exs. ○、24-VII、ヌカ平。

17. キペリタテハ

1ex. △、25-VII、幌加。

汚損が激しく、越冬個体と思われる。

18. サカハチチョウ

1♂ ◎・1♀ ◎ (春型)、14-VII、層雲峠。

ジャノメチョウ科

19. ヒメウラナミジャノメ

1♂ ◎、13-VII、層雲峠。

3♂ ○◎、14-VII、層雲峠。

20. クロヒカゲ

1♂ ◎、14-VII、層雲峠。

1♀ ○・1♀ ◎、25-VII、幌加。

21. ヒメキマダラヒカゲ

1♂ ○、24-VII、ヌカ平。

22. シロオビヒメヒカゲ

1♂ △、14-VII、層雲峠。

23. サトキマダラヒカゲ

1♀ △ (春型)、25-VII、幌加温泉の奥。

24. ヤマキマダラヒカゲ

1♀ ○ (春型)、24-VII、ヌカ平。

奄美、沖縄地方の半シ類

野沢 雅美

ハチ類の研究家として知られる南部敏明氏（寄居町在住一県立越生高校）が、ノタツ年及びノタツ年の二度にわたって奄美、沖縄地方に膜シ類の調査をされた折に採集した半シ類の標本を、筆者に貸与してくれたので、調べた結果をここに報告する。

貴重な標本を調べる機会を下され、本誌への発表をすすめて下さった南部敏明氏に厚くお礼申し上げる。リストはノ科48種である。

なお、採集地が存在する島名の略称はそれぞれ次のようにした。（美）奄美大島、（永）沖永良部島、（与）与論島、（沖）沖縄本島、（石）石垣島、（西）西表島、（国）与那國島。

ツチカメムシ科 CYDNIIDAE

1. ツチカメムシ *Macroscytus japonensis* SCOTT 大原（西）20-■-78
2. インドマルツチカメムシ *Aethus indicus* WESTWOOD 茶花（与）6-■-78、
大原（西）19-■-78、比川（国）26-■-78
3. ヒメツチカメムシ *Geotomus pygmaeus* DALLAS 比川（国）26-■-78、
大原（西）19-■-78

カメムシ科 PENTATOMIDAE

1. キシモフリハリクチブトカメムシ *Eocanthecona furcellata* WOLFF
観音堂（石）15-■-72
2. フタテンカメムシ *Laprius gastricus* THUNBERG 仲間川（西）20-■-78
3. マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttiger* THUNBERG 那ハ（沖）8-■-72、
茶花（与）6-■-72、竹田（石）13-■-72、新村（美）29-■-72、
72、比川（国）26-■-78、米原（石）28-■-78
4. タイワントグカメムシ *Carbula crassiventris* DALLAS 新村（美）29-■-72
5. ヒメナガメ *Eurydema pulchra* WESTWOOD 那ハ（沖）10-■-72、
名瀬（美）8-■-72
6. ナガメ *E. rugosum* MOSTCHULSKY 大原（西）22-■-78
7. ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* LINNE 大原（西）19-■-78, 21-■-78
8. チャバネアオカメムシ *Plautia stali* SCOTT 於茂登岳（石）14-■-72
9. *Plautia crossata* DALLAS 大原（西）19-■-78
10. イチモンジカメムシ *Piezodorus hybneri* GMELIN 大原（西）19-■-78
11. アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* WESTWOOD 大富（西）12-■-72、
石垣港（石）10-■-72、那ハ（沖）8-■-72、
新村（美）29-■-72

エビイロカメムシ科 PHYLLOCEPHALIDAE

1. エビイロカメムシ *Gonopsis affinis* UHLER 大原（西）19-■-78

キンカメムシ SCUTERIIDAE

1. ナナホシキンカメムシ *Calliphara excellens* BURMEISTER 古見（西）21-■-78
2. アカギキンカメムシ *Cantao ocellatus* THUNBERG 大原（西）19-■-78、
古見（西）11-■-72

ツノカメムシ科 ACANTHOSONMATIDAE

1. アオモンカメムシ *Dichobothrium nubilum* DALLAS 德時（永）4-■-72

ヘリカメムシ科 COREIIDAE

1. アシブトヘリカメムシ *Anoplognathus castanea* DALLAS 大原（西）19-■-78

2. ホオズキヘリカメムシ *Acanthocoris sordidus* THUNBERG 大富(西) 12-Ⅶ- '72、
湯湾(美) 27-Ⅶ- '72、 那ハ(沖) 8-Ⅶ- '72、 内城(永) 3-Ⅶ- '72、
大原(西) 19-Ⅶ- '78
3. ホソハリカメムシ *Cletus punctiger* DALLAS 古見(西) 11-Ⅶ- '72、
徳時(永) 4-Ⅶ- '72
4. ヒメハリカメムシ *C. trigonus* THUNBERG 比川(国) 11-Ⅶ- '72、
那ハ(沖) 8-Ⅶ- '72
5. ハリカメムシ *C. rusticus* TSAL 茶花(与) 6-Ⅶ- '72、 大富(西) 12-Ⅶ- '72、
徳時(永) 4-Ⅶ- '72、 石垣港(石) 10-Ⅶ- '72、 古見(西) 21-Ⅶ- '78、
大原(西) 19-Ⅶ- '78、 仲間川(西) 20-Ⅶ- '78
6. アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus australis* FABRICIUS 湯湾(美) 27-Ⅶ- '72、
古見(西) 11-Ⅶ- '72、 大富(西) 11-Ⅶ- '72、 大原(西) 21-Ⅶ- '78
7. アカヘリカメムシ *Dosynus pallidus* STAL 大原(西) 13-Ⅶ- '72、
船浦(西) 22-Ⅶ- '78
8. ホソクモヘリカメムシ *Leptocoris acuta* THUNBERG 徳時(永) 4-Ⅶ- '72、
新村(美) 29-Ⅶ- '72、 米原(石) 28-Ⅶ- '78
9. キボシホソヘリカメムシ *Riptrotus linearis* FABRICIUS 湯湾(美) 27-Ⅶ- '72、
那ハ(沖) 8-Ⅶ- '72、 比川(国) 26-Ⅶ- '78
10. スカシヒメヘリカメムシ *Liolysus hyalinus* FABRICIUS 新村(美) 29-Ⅶ- '72

ナガカメムシ科 LYCAEIDAE

1. ヒメマダラナガカメムシ *Graptostethus servus* FABRICIUS 那ハ(沖) 8-Ⅶ- '72、
湯湾(美) 27-Ⅶ- '72
2. コマダラナガカメムシ *Lygaeus hospes* FABRICIUS 大原(西) 13-Ⅶ- '72、 大富(西)
12-Ⅶ- '72、 徳時(永) 4-Ⅶ- '72、 新村(美) 29-Ⅶ- '72、
仲間川(西) 20-Ⅶ- '78、 観音崎(石) 15-Ⅶ- '78
3. カンシャコバネナガカメムシ *Cavelerius saccharivorus* OKAJIMA 茶花(与) 6-Ⅶ- '72、
石垣市(石) 19-Ⅶ- '78、 大原(西) 19-Ⅶ- '78
4. カーコーテイヒグナガカメムシ *Pachyerontha austrina* KIRKALDY 大富(西) 12-Ⅶ- '72
大原(西) 21-Ⅶ- '78
5. *Dieuches femoralis* DOHRN 於茂登岳(石) 14-Ⅶ- '72
6. オキナワナガカメムシ *Elasmolomus sordidus* FABRICIUS 大原(西) 10-Ⅶ- '72
7. オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* SCOTT 大原(西) 19-Ⅶ- '78
8. ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus* DISTANT 古見(西) 21-Ⅶ- '78
9. *Pachybrachius nietneri* DOHRN 比川(国) 26-Ⅶ- '78
10. ホソナガカメムシ *Paromius seychellesus* WALKER 新村(美) 29-Ⅶ- '72
11. *Lygaeidae* sp. 茶花(与) 6-Ⅶ- '72

ホシカメムシ科 PYRRHOCORIDAE

1. アカホシカメムシ *Dysdercus cingulatus* FABRICIUS 観音堂(石) 15-Ⅶ- '72、
大富(西) 12-Ⅶ- '72、 大原(西) 10-Ⅶ- '72、 野ヤシ林(石) 19-Ⅶ- '72、
比川(国) 26-Ⅶ- '78
2. クロシュウジカメムシ *D. decussatus* BOISDUVAL 観音堂(石) 15-Ⅶ- '72、 那ハ
(沖) 8-Ⅶ- '72、 船浦(西) 22-Ⅶ- '72、 比川(国) 26-Ⅶ- '78
3. ヒメアカホシカメムシ *D. poecilus* HERRICH-SCHAFER 大富(西) 12-Ⅶ- '72

オオホシカメムシ科 LACIDAE

1. ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis* STAL 古仁屋(美) 30-Ⅶ- '72、 大富
(西) 12-Ⅶ- '72、 大原(西) 21-Ⅶ- '78、 上原(西) 22-Ⅶ- '78

サシガメ科 REDUVIIDAE

1. トビイロサシガメ Oncocephalus assimilis REUTER 大原(西) 21-Ⅶ- '78
2. オキナワルリサシガメ Scadra okinawaensis MATSUMURA 上原(西) 22-Ⅶ- '78
3. キベリヒゲナガサシガメ Muagoras plagiatus BRUMEISTER 古見(西) 11-Ⅶ- '72、湯瀬(美) 28-Ⅶ- '72
4. Reduviidae sp. 米原(石) 28-Ⅶ- '78

マキバサシガメ MABIDIAR

1. ハネナガマキバサシガメ Nahis stenoferus HSIAO 大原(西) 21-Ⅶ- '78

(埼玉県大里郡寄居町桜沢2399~1 公舎2号)

+ +

1978年大宮市天沼町でのセミのノート

牧林 功

⑥ クマゼミの記録

1978年8月/3日および/5日、大宮市天沼町内でクマゼミの鳴き声をきいた。
1961年、大宮市に移り住んで以来、初めて聞いた鳴き声であった。

⑦ ツクツクボウシの終鳴期の覚え書

連続して在宅していたわけではないので、連續した観察記録ではないが、面白い事実に気がついたので覚え書としておく。

1978年のツクツクボウシの終鳴期における記録として、まず9月6日に鳴いた。9月7日は涼しかったせいか鳴き出すのがちそく、ノノ時30分になって初めて鳴き声をきいた。この時の気温25.5°C。また9月10日は8時30分に鳴き出した。そのときの気温25.5°C。くすくずというか当然というべきか、9月2日の例も9月10日の例も、鳴き出したときの気温は25.5°Cで一致していた。

9月ノノ日は、くもりときどき雨という天候だったが、最高気温は24.5°Cでツクツクボウシの鳴き声はついに聞けなかった。

9月ノ7日は最高気温が33°Cとなった日だが、ツクツクボウシの鳴き声をきいた。また9月20日の最高気温は33.2°Cであったが、愚息によると、この日ツクツクボウシは鳴いていたという。

それからはしばらくツクツクボウシの鳴くのを耳にしなかったが、ノ0月/ノ日久し振

りにツクツクボウシの鳴き声をきいた。この日の最高気温は24.5°C。この日がこの年の終鳴日となつたが、この日以降、最高気温が24°Cになった日はついになかった(別表)。

(9月の気温と天候)

| 日 | 気温 | 天候 | 日 | 気温 | 天候 |
|-----------------------|------|------|----|------|------|
| 1 | 26.0 | ◎ | 15 | 25.3 | ◎時々● |
| 2 | 26.0 | ◎ | 16 | 22.2 | ● |
| 3 | 27.0 | ◎ | 17 | 33.6 | ○ |
| 4 | 28.7 | ◎後● | 18 | 34.5 | ○ |
| 5 | 23.3 | ● | 19 | 29.2 | ◎ |
| 6 | 26.6 | ◎ | 20 | 33.2 | ○ |
| 7 | 26.1 | ◎ | 21 | 25.2 | ◎後● |
| 8 | 26.9 | ◎ | 22 | 26.6 | ◎ |
| 9 | 28.7 | ○ | 23 | 36.7 | ◎時々● |
| 10 | 33.1 | ○ | 24 | 24.2 | ◎ |
| 11 | 24.5 | ◎時々● | 25 | 27.3 | ◎ |
| 12 | 22.2 | ● | 26 | 32.3 | ◎ |
| 13 | 22.0 | ◎ | 27 | 24.2 | ◎ |
| 14 | 21.2 | ◎時々● | 28 | 19.5 | ◎ |
| 天候の記号……○晴、●雨、◎くもり、◎雨、 | | | 29 | 21.6 | ◎ |
| | | | 30 | 22.6 | ◎ |

(10月の気温と天候)

| | | | | | |
|---|------|---|---|------|------|
| 1 | 29.6 | ○ | 5 | 18.7 | ◎時々● |
| 2 | 31.0 | ○ | 6 | 18.3 | ◎ |
| 3 | 32.0 | ○ | 7 | 20.0 | ○ |
| 4 | 26.3 | ○ | 8 | 22.6 | ◎ |

| | | | | | |
|----|-------|---|----|-------|---|
| 9 | 20. 0 | ◎ | 21 | 21. 8 | ○ |
| 10 | 22. 5 | ◎ | 22 | 19. 5 | ○ |
| 11 | 21. 6 | ◎ | 23 | 20. 0 | ◎ |
| 12 | 24. 0 | ◎ | 24 | 19. 8 | ○ |
| 13 | 18. 7 | ◎ | 25 | 20. 5 | ◎ |
| 14 | 22. 4 | ○ | 26 | 21. 4 | ◎ |
| 15 | 13. 5 | ◎ | 27 | 18. 5 | ◎ |
| 16 | 23. 6 | ○ | 28 | 19. 5 | ● |
| 17 | 24. 5 | ○ | 29 | — | ◎ |
| 18 | 22. 2 | ○ | 30 | — | ◎ |
| 19 | — | ◎ | 31 | 20. 0 | ◎ |
| 20 | 22. 7 | ◎ | | | |

このように観察例はいたって少いが、どうも 25°C 前後に問題があるようで、この温度にならないとツクツクボウシは鳴き出せないようである。別表は9月、10月の大宮市天沼町の自

宅(寒暖計は家屋の北面においてある)での最高気温だが、上記のような理由から、9月27、28、29、30日および10月5日から16日までの間は、観察記録はないがツクツクボウシは鳴けなかっただろうと思われる。今年はもう少しこの問題をくわしく調べてみたい。

◎ アブラゼミの終鳴日

/978年、大宮市天沼町におけるアブラゼミの終鳴日は9月25日。この日ノ5時頃町内を歩いていて鳴き声をきいた。この日の最高気温は 27°C 。

(/979年2月23日)

(〒330 大宮市 天沼町 2~864)

短 報

1979年モンシロチョウ の初見日

市川 和夫

今年は暖冬なので、ウメ・サクラなどが約1か月も早く開花したり、ハナアブなどは2月中旬に満開となった畑のアブラナ科の花に群れていたりという状態である。そこで、モンシロチョウの初見日を記録し、異常気象の一例としてとどめておくことにした。

13; 12-Ⅱ-1979, 浦和市大谷場, 羽化直後と思われる個体で、アブラナ科の栽培植物の花(黄)において吸蜜。

紹 介

MBMEZU (3) 1979年、埼玉県立越生高校理科部生物科 発行 (150部限定)。

主として、南部敏明氏による越生町、寄居町、武甲山の蜂類とハムシ類の記録。およびそれ以外の埼玉県下の蜂類の記録がある。他に、蜂の巣の記録、狩人蜂数種の習性覚え書き、土じょう生物の調査方法、氏がお嬢さんと共に調べた「寄居町におけるタンボボの研究」など、注目すべき内容が多い。

他に昆虫関係では、生徒による「越生町のナミテントウの斑紋について」がみられる。

(市川)

目

- 松井 安俊・松井 英子・吉利根川一久喜、幸手・杉戸一の蝶覚え書……………199
松本 和馬 夏の北海道産蝶類……………204
野沢 雅美 奄美・沖縄地方の半シ類…206
牧林 功 1978年大宮市天沼町のセミのノート……………207

(短報)

- 松本 和馬 ミヤマチャバネセセリの一記録
—— ウラギンシジミの目撲記録
斎藤 悟 和光市でウラギンシジミを採集
萩島 和美 低地におけるミドリヒヨウモンの記録
市川 和夫 浦和でミドリヒヨウモン

次

- 1979年モンシロチョウの初見日
(以上 p203, p208 参照)
(紹介) MBMEZU No.3